

②演算サーバシステムは、演算サーバ、アプリケーションサーバ、ユーザエントリマシン、ファイルサーバ、ファイルバックアップ装置、グラフィックスワークステーションから構成される。

これらの各マシン及び東広島地区に設置される教育研究情報処理システムの管理用サーバを、高速のネットワークで接続し、高速なファイル入出力を可能にする。

③汎用電子計算機システムは、事務処理の継続性を考慮し、現在のデータベース管理システムであるHDM (Hiroshima university Database Management system) の機能が使える必要最小限の機器構成にする。

なお、このシステムは事務処理を優先し、一般ユーザの利用を制限する。

各キャンパスの呼称が統一される

戦後、「タコ足」大学として再出発した本学は、従来、各キャンパスの呼称がまちまちであり、各種の刊行物にも不統一のまま掲載されてきた。

そこで、今後は、市内に複数のキャンパスや施設がある場合は町名を、一キャンパスまたは一施設しかない場合は市町村名を冠することになった。

ただし、統合移転地については、将来の発展を勘案して「東広島」とし、帝釈峡遺跡群発掘調査室については、過去の経緯などにより現状どおり（地域名）とすることが決定された。

本学の研究開発プロジェクト決まる ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー

文部省が、今年度から新たに推進することになった「高度の専門的職業能力を持つ創造的な人材を育成する」ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーが、本学をはじめ国立十一大学の大学院に設置されることが決まった。

このプログラムの特色として文部省は、
①実践性（新産業創出につながるベンチャー型研究開発や高度専門職業人の養成という実践的なプログラムであること）
②創造性（大学院生・若手研究者の自由な発想や創造性を重視したプログラムであること）

③総合性（研究科・専攻の枠を超えた総合的・学際的プログラムであること）
④開放性（先進諸国の研究者や産業界との交流を推進するプログラムであること）

本学のプロジェクト名は、「超高速電子ビーム技術とそれを応用した高機能材料創成技術の研究」である。

山岡名誉教授並びに生物生産学部の長沼助教及び阿倍助手が学会賞等を受賞

山岡名誉教授並びに生物生産学部の長沼助教及び阿倍助手が学会賞等を受賞

本年三月に停年で退官された山岡 究（やまおか・きわむ）現名誉教授が、五月三十日に「パシフィコ横浜」で開催された「高分子学会第四十四回総会」で、「生体関連およびその色素複合体の電気・光学的研究」を通じた高分子基礎科学の発展に果たした役割と長年にわたる学会活動に対する貢献により、高分子科学功績賞を受賞した。

また、生物生産学部の長沼 毅（ながぬま・たけし）助教が、四月七日に「深海水噴出域における微生物の生理・生態学的研究を通して、熱水生物群集の食物連鎖における微生物生産の重要性の解明に寄与」したことにより、日本海洋学会岡田賞を受賞した。

さらに、同学部の阿倍英樹（あべ・ひでき）助手も、四月三日、顕著な研究業績「近世庄内地主の生成」（日本経済評論社）の公刊などにより、日本農業経済学会奨励賞を受賞した。

広大関係同窓会から一千万円の寄付

移転構想が打ち出されて四半世紀。学部の統合移転完了を受けて、今秋実施が予定されているフェニックスフェスタに向けて各部会ともてんやわんやの感がある。

そのような中で、去る七月二十七日、広大の関係同窓会との懇談会の席上で、同窓会を代表して西川亮 尚志会理事長から原田学長に一千万円の寄付金が手渡された。



西川尚志会理事長から学長へ寄付金が手渡された

歯科衛生士学校の中野講師ら功績者表彰を受賞

歯学部附属歯科衛生士学校の中野愛子（なかの・あいこ）講師と同歯科技工士学校の妹尾輝明（せお・てるあき）講師が、専修学校制度二十周年記念功績者として、七月五日、「アルカディア市ヶ谷」（私学会館）で文部大臣から表彰された。

また、歯学部の小野田久美子（おのだ・くみこ）栄養士が、六月八日、「正会員として二十年以上在籍し、栄養士の発展と国民栄養改善の進展に尽力」したことにより、日本栄養士会から表彰された。

この寄付金は、昨年十二月二日に「リーガロイヤルホテル広島」で開催された「統合移転記念・広島大学支援―第一回広島大学同窓会連合大会」の純益の一部。フェニックスフェスタの実施にあたって一歩がかりなのは財政状況であるが、同窓会という力強い応援団からの温かい援助の申し出により、準備にいつそう拍車がかかる模様。

中国五大学学生競技大会 夏季大会終わる ―広大、総合一位に―

去る七月七日から九日の三日間、前日までの雨も上がり、真夏を感じさせる日差しの中、第四十六回中国五大学学生競技大会夏季大会が行われた。

今大会は本学が主管であり、総合優勝七連覇がかかっているというところで、各クラブともその期待に応えるすばらしい活躍を見せてくれた。

優勝は、バレーボール、庭球、水泳の男女アベック優勝をはじめその他の五競技（ソフトテニス男子、卓球女子、硬式野球、弓道男子、陸上男子）で、二位は七競技（ソフトテニス女子、卓球男子、体操、バドミントン女子、準硬式野球、弓道女子、陸上女子）で、三位は二競技（バドミントン男子、空手道）で、それぞれ勝ち取った。この結果、現時点において本学は総合一位となっている。しかし、すぐに冬季大会が開催され、サッカーなど七競技が行われる予定。夏季大会同様に冬季大会も声援をお願いします。

（第46回中国五大学学生競技大会
学生実行委員会委員長 工学部四年
木下一達（きのした・かずたつ）